

## 由良要塞

紀淡海峡は、大阪湾へのアクセスを制御するため、古くから戦略的に重要でした。1868年の明治維新後、近代化を進めた日本は、ロシア、中国、植民地化を進める西洋列強からの潜在的な脅威に直面し、1890年代に海峡防衛のため3つの要塞群を建設しました。由良要塞と総称されるこれらは、ここから海峡を挟んで向かい側の淡路島の港町・由良、海峡にまたがる友ヶ島と呼ばれる4つの島々、そしてここ加太の深山に設置されました。砲台を海からの攻撃から守るため、内陸部には堡壘が建設されました。加太には5つの砲台、4つの堡壘、そして海岸の岬には探照灯基地がありました。友ヶ島には5つの砲台と1つの堡壘、そして司

令部が置かれた由良には7つの砲台と3つの堡壘がありました。矢印は大砲の射程方向を示しています。

深山砲台は、要塞地域法と軍機保護法の可決後、1899年に由良要塞に組み込まれました。これらの法律により、軍事地域の立ち入りや写真撮影、模写が禁止されたため、砲台が稼働している間、加太・友ヶ島・由良は完全に一般人の立ち入りが禁止されました。

この地図の情報は、浄法寺朝美著『日本築城史 近代の沿岸築城と要塞』（1971年出版）によります。